

The letter of
Shinseisakuza

新制作座だより

vol.10

2016 Early SUMMER

<http://www.shinseisakuza.com>



4月6日『野盗、風の中を走る』を語る会にて



1957年 ポスター
(デザイン：栗津 潔)

「野盗、風の中を走る」
舞台「野盗、風の中を走る」
復活上演にむけて・・・

昭和 和33年初演の、眞山美保作・演出「野盗、風の中を走る」は、圧倒的な反響の中、再演も含めて774回の上演をもって幕をおろしました。私が入団したころ、先輩たちの熱い青春時代の思い出の作品として度々話題になっていました。しかしその後、再び上演されることなく、美保先生が旅立って10年の月日が流れていきました。昨年の秋、「野盗」を読んで驚きました。感動して泣きながら読み続けていました。嗚呼・・・先輩たちが目を輝かせ語る「野盗」。北海道から九州まで巡演され、昭和36年12月歌舞伎座でも上演され、東宝で映画化され・・・でも今は幻の傑作となつて約半世紀が過ぎようとしています。動画は残っていませんが、舞台の録音と木下忠司先生の音楽（主題歌）から、舞台と客席が一つになって燃え上がっていくさまが手に取るように感じるができます。

当時舞台をつとめた俳優たちは現在70代～80代。稽古や公演中の出来事などをお聞きしたいと思ひ、4月6日『野盗、風の中を走る』を語る会を行ないました。呼びかけに応じて駆けつけてくださった共同演出の羽根井様、水車の兵六役の西谷様、中年の女役の柴田様、初演の茂代役の山本様、貴重なエピソードの数々を語っていただき、心よりお礼申しあげます。そして、5月22日の『野盗、風の中を走る』を読む会も無事終わり、9月22日に『ドラマティックリーディング「野盗、風の中を走る」』を予定しています。

新制作座はこれからも、この作品を愛し研究を重ね稽古を進めてまいります。総勢40名を越す大作だけに、長く険しい道になるかと覚悟してい

ます。皆さまの応援とご協力をお願い申し上げます。

※俳優・スタッフを募集しています。

↓P7【INFORMATION】参照

(記：小津和知穂)

*** 語る人 ***

—— 眞山美保の語る寓話

俳優は本来「語る人」でありました。

その昔、かれは、共同体の意志をまとめたり、みんなを勇気づけたり、そのために現実を鋭く分析し、人々と固く結びついていました。よく透る声を持ち、表情の豊かな、人並すぐれて立派な肉体の所有者が選ばれて、俳優になったのです。彼は民衆の指導者でした。

だが、ある日、共同体に支配者が現れ、民衆は被支配者の位置におかれたのです。支配者は自分の利益のために、さわやかな弁舌と魅力をもった彼を利用しました。

人々は、かれが、かれ自身の意志でないことを見抜きました。かれ自身のことであるかのように一層巧みに語らねばなりません。この日から、かれは「語る人」であることをやめ、「演ずる人」になったのです。やがて、脚本が与え

られ、演出家が指示し、かれは、ますます「演ずる人」として技術を高めて行きました。

私達は「語る人」でありたいのです。

—— 1957年「野盗、風の中を走る」パンフレットより

*** **

「星槎国際高等学校」

八王子学習センター 教諭

福島康彰先生より

『卒業式に寄せて』

平成28年3月8日(火)、この日は思いがけない初夏の陽

気となりました。川崎市教育文化会館で平成27年度関東地区合同卒業式が無事執り行われ、八王子学習センターからは52名の卒業生を輩出することができました。

私自身は昨年度、新天地で初めて受け持つ担任だったこともあり、気を引き締めつつも、毎日が試行錯誤の日々となり、終わってみれば、あつという間の1年でした。思い起こせば個々との関わりは、本当に色々なことがありました。が、どの校舎でも、そこで学ぶ生徒のひたむきさや仲間との繋がりは

変わることなく、時には笑い、時には悩み、一人一人が学校生活の中で様々な経験をしたからこそ、祝う会の席で、それぞれがほっとした表情を浮かべていたのが、とても印象的でした。

私はこのとき、自分の中で今まで生徒に抱いていた不安や心配などの腑に落ちなかったことが、生徒にとっては、ここでの3年間で、本当にかげがえのない学びの場であり、自分の力で成長し、世の中へ出ていく力を蓄える準備期間だったのだと実感することができました。自分の悩みは些細なことであり、卒業生にしてみれば、この3年間で充実し有意義なものであったと確信し、とても穏やかな気持ちで心地のよい一日となりました。

これからも卒業生が、社会の中で大きく羽ばたくことを願っています。



川崎市教育文化会館での関東地区合同卒業式

「星槎国際高等学校」

八王子学習センター 教諭

持田麻美先生より

『期待いつぱいの 新入生』

去る平成28年4月21日。場所

は神奈川県立青少年センターで「星槎国際高等学校 関東地区合同入学式」が行われました。600名を超える新入生とそのご家族、50名以上の来賓の方々、そして、星槎国際高等学校の技能連携校である星槎学園の新入生も会場に同席し、会場はお祝いムード一色となりました。星槎グループの井上一理事長をはじめ、来賓の方からもあたたかい祝辞をいただきました。八王子学習センターからは、在校生代表として、生徒会役員でもある小西翔太くんが「歓迎のことば」を堂々と披露しました。

今年度、八王子学習センターは57名の新入生を迎えました。入学式を終え、一週間が経過しているとはいえ、まだまだ緊張の表情の新入生でしたが、入学式後は緊張が解けた表情で、ご家族と記念撮影をしていました。

新しい制服に身を包み、期待と

不安で心いっぱいの新入生。少しでも早く学校に慣れ、星槎での高校生活が充実したものとなるよう心からお祈りいたします。



神奈川県立青少年センターでの関東地区合同入学式

「泥かぶら」

客席の熱に背中を押され…

— 淑徳中学校 芸術鑑賞 —

高

校生が受験シーズンだった
だ中の真冬、2月2日。淑

徳中学校公演を行いました。

淑徳中学校・高校とは、数年前の
演劇部 高尾キャンパス合宿以来
のご縁で、演劇部の演技指導に伺
わせていただきました。

「泥かぶら」という作品とは、プ



生徒たちのリハーサル風景

ロの劇団の演劇はどのようなものか、という学校側の期待の眼差しは熱く、村の童役の稽古の際には、「小道具を借りて、本番まで自分で稽古したい」という意欲的な生徒さんの申し出や、3名もの先生が稽古に立ち合ってくださいました。その気持ちを受けて、我々の稽古にも熱が入ります。

そして迎えた本番の客席、最初の場面から生徒さんの集中のし方が通常の公演とは違うのを感じ、静かながら積極的な観劇態度が役者スタッフ陣の張り合いにもなり、舞台を盛りあげました。

2016年の舞台初日、かつ、年度の締め括りにふさわしい、春からの公演の弾みになるような手応えのある公演となりました。

(記・上杉綾)

「泥かぶら」

なつかしい五泉市

— 新潟県五泉市立
五泉中学校公演 —

5

月10日、五泉市で昨年に引き続き
4回目になる「泥

かぶら」の幕が開きました。市内
中学一年生の客席です。食い入る
ように舞台を見つめて集中してい
る様子が、伝わってきます。私た
ちも何日も稽古を重ねて来たの
で、全員心を一つにして舞台を創
りました。

この公演を主催してくださって
いる市長さん始め大人の方々が、
中学一年生になったばかりの5月
に「泥かぶら」を観せてくださるこ

とを本当にありがたう思っていま
す。私も60年前、中学一年生の時、
学校の講堂で観せていただいた一
人です。どんなに勇気づけられた
かわかりません。五泉市は4年間
で中学生全員が観ているので、公
演の後も皆で「泥かぶら」の話をし
ているそうです。

公演の前夜、40年前に青年団、4
日クラブで「泥かぶら」「新制作座
フェスティバル」の主催をしてくだ
さった皆さんと語り合いました。
昨年の新制作座創立65周年の集い、
そして日本橋公会堂の「泥かぶら」
公演の時も、どんなに忙しい時期
でも新潟から駆けつけてくださる
友情は私たちの宝物です。また来
年ばたんの花が咲く季節に五泉市
に行く日を楽しみにしています。

(記・神谷 令子)



新潟五泉市の主催者の方々と



牡丹園での風景

「イベント」

ブータン留学生と 共通する人間性

星

榎大学と姉妹校であるブータンのRTC（ロイヤル・ティンプー・カレッジ）からの留学生を高尾キャンパスに迎えるのは今年で5回目ですが、昨年春に劇団復帰した私には初めての出会いです。彼らが過密な日程を精力的にこなす中、初めて親しく向き合えたのが、何とお別れパーティーの席でした。

彼らは各々流暢な英語で滞在



Farewell party (送別会) にて



「ゴ（民族衣装）」を着る込山虔二郎（四代目ブータン国王にそっくりらしい）

中の印象とお礼を述べました。的確で真情のこもったスピーチでした。その後、彼らは民族芸能を披露し、素朴な歌や踊りの中にブータン国民の平和な生きざまを彷彿とさせました。圧巻だったのは羊毛採取から糸、布を生産し、民族衣装に仕上げるまでの労働過程を描いた輪踊りで、生き生きとした姿に拍手が鳴りやみませんでした。

翌朝は新制作座との民族衣装着付交換会、彼らの和服姿は江戸時代の日本人を思わせるほどの見事さでした。私も生まれて初めてブータンの「ゴ」という民族衣装を着せてもらいましたが、大寒の屋外でも寒くなく良い着心地でした。彼らは私の姿を見て四代目のブータン国王にそっくりだと言って笑い転げました。

彼らの澄んだ瞳、未来を見据えた明るい笑顔に囲まれて、私はふ

と、昔こんな経験をしたことがあったなと思い、浮んだ顔が、紡績工場で働く少女たち、炭鉱の労働者、農村の青年団、私たちを支えてくれた観客の姿でした。ブータンの留学生と新制作座の原点、そこに共通する人間性を発見して私は心躍る思いでした。

（記・込山虔二郎）

TOPICS

さまざまのこと 思い出すお花見

4月3日、折から満開の桜の下、新制作座のお花見会が開かれました。10代から70代の世代まで、25名が一同に会しました。

さまざまのこと思い出す 桜かな
（芭蕉）

「古えの平安時代から日本人は自らの人生に重ねて桜を眺め、愛でてきました。劇団65年の歴史もまた、桜の思い出に彩られてきました。おのおのの世代によって感概は異なるでしょうが、どうか歳を重ねるごとにその心象世界を広げ、深めていってほしい」と、会の冒頭に眞山蘭里理事長の挨拶があり、お花見会は芸術団体らしい雰



みんなで乾杯！



囲気で高まっていきました。

普段は厨房の中で前掛け姿で働いている吉田寛子さんが初めて和服姿を披露し、同じ厨房に4月から新しく参加した星榎高校卒業生の中村尽さんも出席し、2人を指導した故藤川光子さんも満開の桜の時期に旅立ったことを想起して、さぞ雲の上で喜んでいるだろうと想像しました。眞山美保先生の

劇団葬も、劇団員の亀川忠助・文子夫妻が出会ったのも桜の花吹雪の中だったねと語り合い、文字通り「ささぎまのこと」思い出す「花見会」になりました。旬ネタのちらし寿司と芳醇な一献と歌や語らいのなか、宴は日暮れまで続きました。

(記・福島まゆみ)

「イベント」

中国の歌と友好

― 国際婦人デー ―

記念レセプション ―

去

る3月8日、中国大使館で行われた国際婦人デーの記念レセプションに新制作座がお招きいただき、劇団員10名で出席しました。

会の中で、新制作座フェスティバルで披露してきた中国の歌「大中国」「歌唱祖国」と、日本の「北国の春」を歌いました。「北国の春」は、劇団の中国公演以来、長年親交のある大使館参事官の陳さんも一緒に歌ってください、中国でも広く知られている曲です。

「大中国」は歌詞にあるように、中国大陸の偉大さを感じるような大きな歌、「歌唱祖国」は第二国歌



汪婉中国大使夫人(中央左)、陳静文化参事官(左)と共に

と言われているほど、親しみを感ずる歌です。それぞれの心象を表現できるように中国語も稽古し、その成果を披露しました。

ちょうど中国から星槎国際高等学校に留学中の張さんが、新制作座と生活を共にしていて、中国語の発音を指導してくれました。特に、中(シ)や日(ジ)の音が難しく、張さんには感謝です。

今回私は初めて婦人デーの記念レセプションに参加しましたが、大使館中が各界の女性やゲストの方々であふれ、日中両国が打ち解け、和やかに言葉を交わし活気がありました。

(記・亀川忠助)

劇団員の紹介

木村 幸子

sachiko kimura

このコーナーは、劇団員の活動秘話などをとりあげ、一人ずつご紹介いたします。



【プロフィール】

昭和42年入団、劇団の代表作「泥かぶら」では梅吉、村の童を演じている

【Q & A】

◎ 木村さんにとって新制作座とは？

(A) 私の生きる全て!!

◎ 入団当時の夢や志は？

(A) 入団のきっかけは高校1年生の時「青春」を観たこと。そして、私がいただいた生きる勇気を、他の多くの人たちにも届けたいと思いました。

◎ 携わった作品の役柄や役割、印象に残るエピソードは？

(A) 出演した作品は「泥かぶら、青春、新制作座フェスティバル、坂本龍馬、万国旗の子」で、そのほかは小道具制作です。一番最初に役をいただいた村の童は、若かったし初めてだったし、言われたとおりにやったら、すごく子どもらしいと言われました。

◎ 劇団創立者の眞山美保先生には“子ども以上に子どもらしい”と絶賛された逸話があるのですね？

(A) 指導されたとおりに大きい声でゆっくりやったら自然にそうなったので、何も演じなかったのが良かったんじゃないでしょうか。童顔で小柄だし、昔はもっと舌たらずだったし…、自分に合っていたのかな。今はその状態を演じているから、前よりは落ちている・・・

◎ 小道具制作にまつわる話を教えてください。

(A) 眞山青果劇場が始まった時、子ども役はほとんどなく、劇団に入る前、美術工芸の方に進みたいと思っていたこともあり、小道具制作をやらせてもらうことになりました。

「頼山陽」の舞台で、祝いの場に出てくる“尾頭付きの鯛”を作りましたが、ある日の稽古の折、劇場の客席で先生の話や皆で聞いている最中に、劇場に忍び込んだ1匹の野良猫が上手から登場し、その鯛の臭いをクンクン嗅いで下手に去ったのだそうです(私はなくて目撃してないのですが)。それを“すごい すごい”と皆が言ってくれたのが私の小道具人生に励みとなり、それからいろいろなものに挑みました。

「江戸城総攻」の鯉や石灯籠、「泥かぶら」のくま笹やススキ、「新制作座フェスティバル」の“蓮の花踊り”の蓮、「平将門」の几帳など。新作の時はよく徹夜しました。

◎ 今後の夢や目標は？

(A) 日本中の子どもたちに「泥かぶら」を届けたい。

美しき五月のために

真山美保詩

一、

五月になると思ふんだ まっと俺は思ふんだ
 なせ冬のうら ぼやぼやーマたんだらう
 彼女を早く 口説いておけば
 五月の風と 光の中を
 一人ぼっちで 歩かずに すんだのにな

二、

五月になると思ふんだ きつと俺は思ふんだ
 なせ冬のうら はにかみなんぞ持たんだらう
 隣の職場の あいつにな
 男同志の あいつとくれば
 一人ぼっちで 歩かずに すんだのにな

三、

五月になると思ふんだ きつと俺は思ふんだ
 なせ冬のうら 勇気を持たなかつたんだらう
 言いたいことを 言わなかつたことで
 五月の風と 光の中を
 俺は豪傑のように 歩けないんだ

四、

そぞろ俺は 決心しよう
 来年の美しい 五月のために
 冬の間に 小さくなるまいと
 気おくれや はにかみと闘つて
 五月の風と 光の中を
 仲間と並んで 豪傑のように
 歩きたいもんだと

(原泰賢・書)

なごみの
コラム

— 劇団犬「茶々」のご紹介 —
 「可愛くて勇敢な女の子」
 (聞き取り: 江崎はんな)

Illustration: Chiho Koduwa



私の名前は「茶々」。なんでも歴史上有名な淀君という人の幼名なんですって。その人も美人で誇り高かったそうだけど、そこは私も似てるかな。

15年も生きているといろんなことがあったけど、中でも忘れられないことをひとつお話しするわね。私がもう少し若かった時、Aさんが私を散歩させて下さることになったんだけど、何とAさんはゆっくりまっすぐに歩くだけ。どうも体の調子が今いちみたい。そこで私わかったの。Aさんは自分の健康のためにも私と歩こうとしているんだってことが。「まかせて。みんなは私のこと、やんちゃ娘と思っているらしいけど、実は役に立つのって好きなの。だって人の役に立つことこそ、犬の一番の喜びなんですもの」。散歩を始めてわかったことは、Aさんが歩きながら何度も「茶々」と声をかけて下さること。私を散歩させて下さる愛が感じられて、私は自分だけが役に立つなんて思っていたことが恥づかしくなったの。今はAさんと一緒にゆっくりまっすぐに歩いた日になつかしい。

私は“人が大好き”。今はたくさんの若い人たちがいる高尾キャンパスが大好き。これからも、いつでも「茶々」と声をかけてくださいね。



満開の桜と茶々

2016年 公演・イベントスケジュール

〔泥かぶら〕公演

5月 10日(火) 新潟県五泉市立五泉中学校
 6月 2日(木) 都立八王子東高等学校
 7・8日(火・水) 北九州市 明治学園小・中・高等学校
 9日(木) 福岡市 九州産業大学付属九州高等学校
 10日(金) 星槎国際高等学校 福岡GC
 14日(火) 東海大学付属浦安高等学校
 7月 5・6日(火・水) 足利市教育委員会
 9月 1日(木) 新潟県立村上高校
 10月 1日(土) 山形県尾花沢市
 3～6日(月～木) 宮城県大崎市

11月1～3日(火～木) 大阪公演(クレオ大阪西) 一般公演
 4日(金) 星槎名古屋中学校
 9・10日(水・木) 栃木県佐野市(佐野市文化会館)
 27日(日) 福山市子ども会育成協議会
 12月 2日(金) 和歌山県広川町

〔野盗、風の中を走る〕

9月 22日(木) 「野盗、風の中を走る」読む会(予定)

その他イベント

9月 10日(土) 新制作座「プチ」フェスティバル
 「音楽とピザとワインのタベ」
 12月 3日(土) 眞山青果シンポジウム(一ツ橋会館)
 12月 23日(金) クリスマスパーティ

劇団新制作座 2016年[夏]募集

【新キャスト、スタッフ募集!!】

新制作座では、この夏新たに俳優とスタッフを募集いたします。通過された方は、新制作座の「座友」として全国巡回公演の出演をお願いいたします(1年契約)。
 出演料あり、チケットノルマ無し、交通費支給。
 座友から、準劇団員・劇団員への道も開かれています。

●募集キャスト

「泥かぶら」：梅吉役・中年の女役
 (20～27歳くらい、女性2名)
 「野盗、風の中を走る」：メインキャスト
 (25～40歳くらい、男性3名)

●スタッフ(演出部)

大劇場から体育館まで、様々な条件の会場で舞台作りを行います。※中型免許をお持ちの方歓迎
 (20歳～30歳くらい、男性1名)

〈選考方法〉書類選考後、オーディション(実技／面接)

◇氏名、住所、生年月日、連絡先、を明記し、プロフィールに写真(バスタップ／全身)を添えて担当までメール、またはご郵送ください。
 書類選考通過者は、7月10日までに担当者よりご連絡いたします。
 ※スタッフ希望者は、書類選考と面接のみ。
 ※筆記用具持参、動きやすい服装でご参加ください。

〈会場〉劇団 新制作座

〈日時〉新制作座Webサイトにて公開

〈審査料〉2,000円

〈応募資格〉キャスト希望者は、舞台経験者に限ります(2年以上)プロダクション、他劇団への所属は問いません(必ず許可を得てからご応募ください)

〈応募期間〉6月30日必着まで

【研究生募集!!】

劇団新制作座の研究生は、本公演の舞台出演に備えた、俳優に必要な発声、歌、日本舞踊などの演劇の基礎を学ぶと同時に、演出部の技術と経験を身に付けることができます。
 研究生から本公演のキャストの選抜も行ないます。
 研究生から、準劇団員・劇団員への道も開かれています。

全国公演・学校公演・演劇の基礎を活かしたコミュニケーション教育の企画制作・国際交流・文化交流事業など、劇団員と共に学び体験することができます。
 プロの演劇の職人・先輩たちがあなたの熱意ある参加を待っています。

研究生の基礎稽古は、八王子市の劇団本部または、都心に近い会場にて行ないます。

年間36回の基礎稽古の受講料が免除されます。

本公演のキャストに抜擢された方は、基礎稽古以外にも出演のための稽古を行ないます。

●オーディション詳細

〈選考方法〉書類選考後、オーディション(筆記／実技／面接)
 ◇氏名、住所、生年月日、連絡先、を明記し、履歴書に写真(バスタップ)を添えて(出演歴があれば明記)担当までメール、またはご郵送ください。
 書類選考通過者は、7月10日までに担当者よりご連絡いたします。

〈会場〉都内某所にて(書類選考通過者にお知らせします)

〈日時〉新制作座Webサイトにて公開

〈審査料〉2,000円

〈応募資格〉経験不問。年齢18～22歳くらいの、心身ともに健康な男女。(プロダクションに所属されている方は、必ず許可を得てからご応募ください)

〈応募期間〉6月30日必着まで

〈お申し込み・お問い合わせ〉

劇団 新制作座 担当:小津和(コヅワ)、上杉(ウエスギ)

TEL 042-661-0001 FAX 042-661-6702 info@shinseisakuza.com

12年ぶりの「泥かぶら」大阪公演決定!!

2016年7月1日(金) 前売り券発売開始

昨年、劇団創立65周年を迎えた新制作座は、12年ぶりに大阪での一般公演をいたします。ぜひご期待ください。

〈公演日〉

2016年11月1日(火) 開演 13:30 (団体鑑賞のみ受付)

11月2日(水) 開演 13:30

11月3日(木・文化の日) 開演 11:00 / 開演 15:30

〈会場〉クレオ大阪西 (大阪市此花区西九条6-1-20)

※地下鉄 西九条徒歩3分

〈客席〉386席 (うち車椅子席2、親子席6)

〈入場券〉大人 ¥4,500 (当日 ¥5,000)

学生 ¥2,500 (当日 ¥3,000)

※団体割引 15名様より 10%off

※団体鑑賞のお申し込みは随時受け付けております

〈主催〉NPO法人 劇団 新制作座

劇団衣装部「朱鷺-toki-」活動報告

八王子学習センターの生徒さんが星槎大学の姉妹校であるブータンのRTC (ロイヤル・ティンプー・カレッジ)に、短期交換留学すると聞き、「朱鷺-toki-」では日本の民族衣裳の着物で応援しました。ブータンへの短期留学で「朱鷺-toki-」の着物が活躍滞在先の限られた時間で着られるように、海外公演の衣装の早変りで使用した作り帯が活躍しました。「朱鷺-toki-」は、国際交流にもお役に立てるよう、みなさまを応援します。



ブータンへの短期留学で「朱鷺-toki-」の着物が活躍



真山美保 詩集 第一集

真山美保 詩集

— 第一集 —

絶賛発売中!!

「泥かぶら」「野盗、風の中を走る」などの作品とは、また違った真山美保の一面を感じていただける珠玉の29編を収録。1冊 1,500円(税込)



7月花形大歌舞伎

眞山青果 作・眞山美保 演出

江戸絵両国八景「荒川の佐吉」上演のお知らせ

平成28年7月2日(土)～26日(火)

<http://www.kabuki-bito.jp/theaters/kabukiza/>

NEWS



嵐山光三郎さんの

『漂流怪人・きだみのる』刊行

きだみのる氏は、眞山美保先生との交流があり、新制作座に逗留していた。

その当時(1967～8年)著者の嵐山光三郎さんが、きだみのる氏を訪ねて新制作座に来られた事があったそうだ。

この本をお書きになるため、約50年ぶりに嵐山さんが取材に劇団を訪ねられた。私自身、きだ先生のドブネズミ号(先生の愛車)に乗せられて、八王子市の恩方に遊びに行ったときのことを話した。小学校の2、3年生だった私にとって、きだ

みのる先生の印象は、鮮烈でめったに会えない個性的な大人だと感じたものだ。年の近かったきだ先生の娘、ちいちゃん(嵐山さんの本の中では、ミミちゃん)の遊び相手としても、きだ先生はよく声をかけてくださった記憶がある。きだみのる先生の私の知らなかった人生をととても興味深く読ませていただいた。

人間臭い豪快な生き方を貫いた自由人「きだみのる」を嵐山光三郎氏の魅力ある文体でつづる『漂流怪人・きだみのる』(小学館/本体1,600円+税)ぜひお読みください。

(記・眞山 蘭里)

次の「新制作座だより」は、2016年10月～11月に発行予定です。

劇団 新制作座

[新制作座だより] 第10号 2016年5月31日 発行

発行: NPO法人 劇団 新制作座 〒193-0826 東京都八王子市元八王子町2-1419

tel: 042-661-0001 fax: 042-661-6702 e-mail: info@shinseisakuza.com